

健康支援に必要な

「LGB」と「T」の整理

LGBTとは、正確にはどんな意味？ 健康づくりの現場では、どんな配慮が必要？

2023年6月にLGBT理解増進法が施行されました。多様な性が注目される中、健康づくりの現場では、今何が問題となり、どんな課題が生じているのでしょうか。フリーランスのコンサルタントとして地域や組織の保健活動に広く携わる堀成美氏に、LGBTに関する保健現場の課題についてご紹介いただきます。



●執筆
堀成美 ほり なるみ

感染対策ラボ 代表
国立感染症研究所
感染症疫学センター 協力研究員
神奈川大学法学部、東京女子医科大学看護短期大学卒業。2009年国立感染症研究所 実地疫学専門コース（FETP）修了。同年聖路加国際大学助教、2013年より国立国際医療研究センター感染症対策専門職。2015年より国際診療部医療コーディネーター併任。2018年8月よりフリーランスのコンサルタント（感染症対策・地域や組織のグローバル対策）。

今年の6月の国会で、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が成立、施行されました。もともと教育や保健医療の現場では、関わる対象と一緒に働く人たちの性は多様であるとし、文部科学省のホームページには「性的マイノリティに関する施策」のページがあります。このため、「この法律をきっかけに、今までと何が変わるのか？」という疑問が生じています。

性の多様性に関しては、LGBT、性的少数者、性的指向、性自認、性同一性障害などの用語が使われていますので、まず用語の使

い方を丁寧にすることが基本となります。ここでは、LGBTのイニシャルワードについて考えてみたいと思います。前述の長い法律を省略するために「LGBT法」と表記されることがありますが、そのための混乱が生じています。何げなく使ってしまうようにしましょう。「LGB」と「T」を整理して説明します。

「LGB」と教育・保健医療

LGBはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアルの略で、それぞれ女性が女性、男性が男性、また男性も女性も恋愛や性の対象とする

ことを意味します。どちらにも興味がない人（アセクシュアル）もいます。これは恋愛や性的な関係になる時のフォークラスですが、それ以外の場面では他の人には関係がありません。学校や職場で広く自分の話を周囲に伝える必要はありません。

秘めていた情報を他人に伝えることを「カミングアウト」と言いますが、性的指向を伝えるかどうか、いつ・誰に伝えるかは個人の自由です。自由ではありますが、他人に伝えることで個人情報その先拡散する可能性も考える必要があります。伝える相手への配慮も必要です。性的指向だけの話ではありません。

んが、秘密とされる情報を伝えることでその人に負担が生じることがあります。周囲に伝えることがゴールであるかのような誤解をされないように注意しましょう。「できる」「できない」といった表現もしないようにしましょう。

一方、医療機関では性的指向の情報が正確な診断や治療にとって重要なことがあります。例えば、いくつかの感染症は男性同性間で広がりやすいことがわかっていますし、A型・

B型肝炎ウイルスのワクチンは接種が推奨されます。個人情報の保護は当然のことながら、性の健康のサポートも重要と考えていることを伝えましょう。

法律や制度上の位置づけは日本ではこれからです。入院申込書の保証人や同居者が同性パートナーである場合も法律婚カテゴリーや家族に準じた対応をし、不利益や差異が生じないようにすることは医療の現場でもできる理解・増進の取り組みです。

「T」と教育・保健医療

トランスジェンダーは性別に違和感を持つ人々の総称で、身体と心が男女逆の自認の人であれば、どちらでもないと感じる人もいます。違和感を感じつつもそのまま生活をする人もいれば、手術をして性自認に合うようにしたいと考える人もいます。2018年4月から、性同一性障害者に対する性別適合手術にも保険が適用されるようになりました（それまでは精神的な対応のみ）。しかしそこに至る前にはまず相談先があり、適切な助言を得た上で医療につながる必要があります。子ども、特に思春期世代への情報提供や意思決定の支援が重要ですので、学校での教育内容・相談においても保護者とともに寄り添えるようにしていきましょう。保護者もまた支援の対象です。

LGBTQIA+を例に考える

性について気づいたり考える・認識を変えるタイミングは人によって異なる

クイア (Queer)

既存のカテゴリー分類にとらわれないで、性的アイデンティティを表す包括的な用語として使用される特定のコミュニティ内で使用される¹⁾

性的指向 (sexual orientation)

恋愛や性の関心の対象での整理

異性愛者 (Heterosexual)：異性

同性愛者 (Homosexual)：Lesbian、Gay

両性愛者 (Bisexual)：異性と同性

全性愛者 (Pansexual)：すべての性

無性愛者 (Asexual)：性的なことに無関心
関心を持つ対象がない

[+]

現在の用語や概念での整理にとどまらない多様性があることの表現として「プラス」と表記²⁾

性自認 (gender identity)

自分で認識する性(心の性)での整理

男性/女性

トランスジェンダー (Transgender)

身体の性と心の性が異なる人、その境界を超えて生きている人²⁾

生物学的性 (biological sex)

身体の性：男性・女性

インターセックス (Intersex)

女性または男性の枠に当てはまらない生殖器官、性的解剖学的構造を持って生まれてくるさまざまな状況を指す用語²⁾

* 外科手術やホルモン治療をしても、もともとの身体的な性質は維持される

参考

- 1) Britannica
- 2) Planned Parenthood
- 3) LGBTQIA+ Inclusive Language Guide

医療や教育・就労の場での具体的な対応(変更、新設)が必要になります。「職場や学校の更衣室やトイレ、公共の浴場で男女どちらのスペースを使用するか？」はニュースにもなっています。これは性的少数者の「のために」どうするかではなく、社会全体での安全やロールの話です。ここでの整理の軸は自分が考える性ではなく、身体の性です。心は女性だと主張しても身体が男性の人物が女性のスペースに入ることは容認されません。

もともと多様性の理解とは少数の人に特別な対応をしようという意味ではありません。違いがあってもお互いが安全で平和に生活できるよう取り組んでいきましょう。